



在宅酸素療法 災害対策特集

監修：千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学 教授 巽 浩一郎 先生



災害に遭遇した時の心がまえ

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、大きな地震や津波、火災によって、ライフラインが寸断され、在宅酸素療法を受けていた多くの患者さまにも甚大な被害をあたえました。災害時の停電は在宅酸素療法を受けている患者さまに深刻な事態を招くことがあります。まず、停電時の対処法について考えてみましょう。



◆まず酸素ボンベに切り替えましょう

停電になった場合には、携帯用酸素ボンベに切り替えることが重要です。

携帯用酸素ボンベは、すぐに持ち出せる身近な場所に保管しておけば、停電になった時でもあわてないですみます。また、日ごろから酸素ボンベの残量確認をしておきましょう。

なお、バッテリーを内蔵した酸素濃縮装置の場合は、停電後でも一定時間作動し続けますから、とっさの場合にもあわてる必要はありません。ご自身の使用している酸素濃縮装置がバッテリー内蔵機種かどうかをかかりつけの医師に確認してみましょう。



携帯用ボンベに切り替えましょう

日頃から残量確認しておけば安心ですね



バッテリー内蔵ならさらに安心ですね



※災害時に自宅から避難する場合に備え、「第二連絡先」や「公共団体で定めている避難先」を酸素事業者伝えておくことをおすすめします。



在宅酸素療法患者さまの災害時の持ち出し用品

災害時に、いつでも持ち出せるように収納場所を決めておきましょう。
ひとまとめにしておくのと、いざというときにあわてなくて済みます。

- ☑ 携帯用酸素ボンベ
- ☑ いつも飲んでいる薬
(一覧表を作っておくと便利)
- ☑ 緊急連絡カード
- ☑ 『在宅酸素療養日誌』など
- ☑ 健康保険証・身体障害者手帳



日ごろから準備しておく持ち出し用品

3日分の飲料水・食料品

最低限3日分の飲料水(1人1日3リットル)と3日分の非常用食料品

日用品

携帯ラジオ、懐中電灯、予備の乾電池、筆記用具、ティッシュ(ウェットティッシュ)、ラップや古新聞(何にでも応用可能)、簡易トイレ、など

現金や貴重品

預金通帳、印鑑。公衆電話用の10円硬貨など

※携帯電話はつながりにくくなることが想定されます。

衣類

防寒具や運動靴など(持ち出し用品と同じところに収納)

